

平成23年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010 - B - 02

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 青い地球の地震学英文: Blue Earth seismology4. 研究代表者所属・氏名 東京大学・地震研究所 川勝 均(地震研究所担当教員名) 東京大学・地震研究所 西田究

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
川勝均	東京大地震研究所・教授	研究会に参加	2012/2/12	1	
西田究	東京大学地震研究所・助教	口頭発表	2012/2/12	1	
佐藤春夫	東北大学大学院・教授				
中原恒	東北大学・助教	口頭発表	2012/2/12	1	有
山本希	東北大学・助教	ポスター発表	2012/2/12	1	
中島健介	九州大学・助教				
利根川貴史	海洋研究開発機構・研究員	研究会に参加	2012/2/12	1	
青木陽介	東京大学地震研究所・助教				
綿田辰吾	東京大学地震研究所・助教	研究会に参加	2012/2/12	1	
日置幸介	北海道大学・教授	口頭発表	2012/2/12	1	有
加藤護	京都大学・助教	研究会に参加	2012/2/12	1	有
齊藤昭則	京都大学・准教授	口頭発表	2012/2/12	1	有
柿並義宏	北海道大学・研究員	口頭発表	2012/2/12	1	有
家森俊彦	京都大学・教授	口頭発表	2012/2/12	1	有

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：

常時地球自由振動, 地震波干渉法, 火山地震学, 惑震学, 海洋波動

大気・海洋・電離層等の流体地球と固体地球の共振現象が地震波を通して観測され（またその逆もある）近年注目されている．日本の研究者による地震のないときも観測される常時地球自由振動の発見や，地震脈動（海洋波浪起源）を使った地下のマッピング・モニタリングなどである．このように地震学を，時間軸を入れた4次元科学，また多圏相互作用・惑星科学まで広げる可能性をもったフロンティアとして，流体地球と固体地球のカップルした系として扱う地震学「青い地球の地震学」を推進する．23年度は2012/2/12に研究会を開催した．海洋科学、火山学、地震学、地球電磁気学を含む多くの内容の発表があったが、特に東北地方太平洋沖地震に伴い発生した電子密度擾乱について活発な議論をおこなった。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

A. Takeo, K. Nishida, T. Isse, H. Kawakatsu, H. Shiobara, H. Sugioka, and T. Kanazawa (2012), Seismic radial anisotropy beneath the Shikoku Basin in the Philippine Sea from broadband array analysis of surface waves on sea floor record, *J. Geophys. Res.*, submitted.

Hydrologic very low-frequency tremors beneath the Shonai plain in northeastern Japan, Kiwamu Nishida and Katsuhiko Shiomi, *J. Geoph. Res.*, revised.

Seismic imaging of magma chamber beneath an active volcano, Nagaoka, Y., K. Nishida, Y. Aoki, M. Takeo, and T. Ohminato, *Earth and Planetary Science Letters*, accepted, 2012

庄内平野で観測された奇妙な超低周波微動活，西田究（東大地震研）・汐見勝彦（防災科研），地震学会秋季大会，2011